



**聖公会国際礼拝協議会 (IALC)**  
**アングリカン・コミュニオン内ネットワーク**

**2019年香港会議 — 公式共同声明 (コミュニケ)**

聖公会国際礼拝協議会 (International Anglican Liturgical Consultation) は香港にて、2019年1月21日から25日まで会議を開いた。協議会は、香港聖公会によって温かく迎えられ、香港聖ヨハネ大聖堂と主任司祭マティアス・ツェ・ウォ・デア師によって会場を提供されたことを感謝するものである。本協議会はまた、<sup>ミシシッピ</sup>明華神学院の学生による補助や援助に感謝する。アングリカン・コミュニオン・オフィスからは、一致・信仰・職制委員会プログラム担当幹事ニール・ヴァイガース師が代表として参加した。



全聖公会内の21教会から、代表が参加した。

今回は IALC として初めての、2015年モンテリオール会議の決定による、国際的エキュメニカル団体 *Societas Liturgica* (国際典礼学会) の会合と直接的に関係しない全体協議会であった。それゆえ、アングリカン・コミュニオンの半数以上の教会の代表が会に参加したことは喜ばしいことであった。また、半数以上が初めての参加者であったことも注目すべきことである。

IALC は、奨学金資金を通して、何名かの委員の参加を援助することができた。今後の会合に際して、このような参加を確かなものとするためには、相当額の奨学金の拠金が必要となるであろう。

この1週間を通して、日々の祈りは全聖公会の様々な地域からのチームによって導かれた。本協議会は、首座主教ポール・クウォン大主教により、ご自身が司式されるユカリストに招かれる光栄を得た。この礼拝においては、アングリカン・コミュニオンにおいて司祭職に叙任された最初の女性であるフローレンス・リ・ティム・オイ師が、1944年1月25日の同師の叙任の前夜に覚えられた。



本協議会はまた、聖ヨハネ大聖堂会衆、また香港のキリスト教団体によって行われたキリスト者一致祈禱週間の礼拝に参加するという喜びを得た。

## 各教会・管区よりの報告

管区報告が示すところでは、祈禱書・聖歌集・祈禱文改正への動きが数多くの管区で見られ、知識・資源・過程を共有するための IALC の重要性が強調される場所であった。多くの管区が、教会暦の改訂の文脈において、各地域に固有の聖人や殉教者を取り入れる方法を考慮していた。



多くの教会が、特にロマンス系諸言語において、神に対するジェンダー性を帯びた言及という問題に対する作業に着手していることを報告した。様々に相違する文脈のこれらの報告からは、包括言語やジェンダー的言語は注意深い、また文脈的な適切な応答を求めるものであり、さらなる作業が必要とされていることが認識された。

本協議会はまた、2017年に韓国で設立され、2018年日本で最初の会合を行った聖公会東アジア礼拝ネットワーク(Anglican Liturgical Network in East Asia)からの報告を受けた。

## 全聖公会における一致のための祈りに関する作業

首座主教会議によるタスクグループ（特別作業部会）の要望により、本協議会はアングリカン・コミニオンの一一致のための礼拝的資料や素材を準備するため、かなりの作業を行った。この作業はキリスト教一致祈禱週間中に行われたが、過去数十年にわたり我々自身の「愛の絆」が試みのうちにあったことを聖公会員として認識した。しかしながら、我々の一致は統一性を意味することはできない。私たちの多くの文化・言語や、私たちが受け継いできた聖公会の伝統を具体化し、発展させるさまざまな方法は、ますます多様化しているからである。

首座主教会議によるタスクグループは、ユーカリスト的礼拝とみ言葉による礼拝の双方で用いることのできる素材を IALC に対して求めた。本協議会においては、この両者のいずれに対しても、完全な礼拝を提供するには至っていない。過去の IALC の声明、特にプラハとダブリンの声明は、ユーカリストや他の礼拝における、礼拝の構造とそこに含まれる典型的な要素についてのガイドラインを提供している。本協議会ではそれに代えて、一致、ことに全聖公会における一致をテーマとして行われる礼拝で用いる、様々な分野の広範囲にわたる祈禱文や、推奨される聖書箇所と聖語を作成した。

## リタージカル・フォーメーションと神学教育

2015年のモントリオール協議会での諸管区報告において、聖職や信徒のリーダーに対する訓練やリタージカル・フォーメーションが不適切であり、かつ多くの神学校や養成訓練の枠組みにおいて、礼拝教育がもはや重要なものとみなされていないことへの懸念が示された。この懸念を採りあげ、職務の

ためのリタージカル・フォーメーションの核となる要素とコンテキストについて、かなりの作業が行われた。

本協議会はまず、リタージカル・フォーメーションが実際に行われている様々なコンテキストに耳を傾けることからその作業を開始した。これらの様々なコンテキストから、本協議会はアングリカン・コミュニオンのすべての教会を通じて必須の、核となる神学的・実践的能力を確認した。

この作業の一部は、アングリカン・コミュニオン神学教育部門（Theological Education for the Anglican Communion, TEAC）がアングリカン・コミュニオン諸教会における様々な形の奉仕職やキリスト者の弟子としての生活のための職務表（Ministry Grids）のためにさらなる考察を加えられるよう、同会に対して報告されている。

### さらなる作業のために

本協議会における作業は運営委員会に引き継がれ、運営委員会によって完全な形のステートメントとされた上で、全聖公会中央協議会（Anglican Consultative Council, ACC）が本年後半に会合を行う際にプレゼンテーションが行われる。

### ビジネスミーティング

本協議会は、当ネットワークのガイドラインを明確化し、特定の作業内容または協議会のコーディネーターや企画のための作業のため、選挙によらず委員を任命することができる旨確認するという、運営委員会提出の議案を承認した。

本協議会はまた、ある総会で着手された作業が終了し報告されることを確かなものとするために、退任する IALC 議長が運営委員会の職務上の委員として短期間継続するという議案を承認した。

本協議会はまた、礼拝的資料を全聖公会内各教会で共有することに関して、ACC に対し送付する決議を起案した。

本協議会は運営委員会の新委員として 4 名を選出した。本協議会から任命された運営委員会の全員は以下の通りである。

クリスティン・ベノワ、インド洋管区聖公会

ルイス・コエーリョ、ブラジル聖公会

デーブ・コートニー、オーストラリア聖公会

キース・グリフィス、南アフリカ聖公会

サイモン・ジョーンズ、イングランド教会

チュンワイ・ラム、香港聖公会

リゼット・ラーソン＝ミラー、カナダ聖公会（職権上委員）

シンシア・ボタ、南アフリカ聖公会（秘書）

ニール・ヴァイガース、アングリカン・コミュニオン・オフィス

リチャード・クラーク、アーサー大主教、アイルランド教会、ACC 選出委員

## 協議会参加者

フェレイミ・カマ：**アオテアロア・ニュージーランド・ポリネシア聖公会** クリス・チャタウェイ、  
ダグ・モリソン・クリアリー、エリザベス・スミス、デーン・コートニー：**オーストラリア聖公会**  
ルイス・コエーリョ：**ブラジル聖公会** ダグラス・フェントン、リゼット・ラーソン・ミラー：**カナ  
ダ聖公会** ブライトン・マラサ：**中央アフリカ聖公会** ラクシュマン・ダニエル：**セイロン教会** ハ  
ーヴェイ・ハウレット、サイモン・ジョーンズ：**イングランド教会** ラム・チュンワイ（林振偉）：  
**香港聖公会** クリスティン・ベノワ、ジルベール・ラトルーゾン：**インド洋管区聖公会** ジェラル  
ド・フィールド、アラン・ルフリ：**アイルランド聖公会** チュ・ナッキョン：**大韓聖公会** ステファ  
ン・オフォーオブ：**フィリピン聖公会** 市原信太郎、永谷亮、尾尻早弥：**日本聖公会** ジョン・デイ  
ビス：**スコットランド聖公会** モーゼス・チン：**東南アジア聖公会** ビスマルク・アボカヤ：**南スー  
ダン聖公会** シンシア・ボタ、キース・グリフィス：**南アフリカ聖公会** ダニエル・ムサ：**スーダン  
聖公会** ブルース・ジェネカー、ジェイソン・ルーカス、ルース・マイヤーズ：**米国聖公会** キャサ  
リン・ヘインズ：**ウェールズ聖公会** ニール・ヴァイガース：**アングリカン・コミュニオン・オフィ  
ス(ACO)**

